

# ベラルーシ公開情報取りまとめ

(2020年1月29日～2月3日)

2020年2月4日  
在ベラルーシ大使館

## 【主な出来事】

- ルカシェンコ大統領、ポンペオ国務長官と会談(2/1)
- 米国への入国制限国リストからベラルーシは除外される(2/1)
- ポンペオ国務長官、マケイ外務大臣との共同記者会見(2/1)

## 内政・外交

### 【ルカシェンコ大統領動静】

#### ●ポンペオ国務長官と会談(2/1)

ルカシェンコ大統領の発言要旨は以下の通り。

(2/1 大統領公式サイト)

・貴長官のミンスクご来訪を歓迎する。私は、貴長官との会談を心から嬉しく思う。少なくとも、2つの理由からだ。一つは、貴長官が現在の米国政策設計者の一人であること。我が国においては、そのように考えられている。第二に、ベラルーシ・米国関係における数々の誤解、過去の政権による全く根拠の無い誤解の後に、貴長官がミンスクを訪問し、この国、国民、人々を見て、どのような独裁主義、民主主義があるのか等を見ろというリスクをとったことは、大変良いことだ。

・もちろん、1日で全ての問題を学ぶことはできないであろう。しかし、貴長官は初めて近づいてベラルーシを知ることになるだろう。

・ベラルーシは、平和愛好的国民がいる完全に平和愛好的な国である。それに向けて我々を動かしているのは、メンタリティだけでなく、ベラルーシ国民が経験した歴史もある。とくに、ファシズムに対して貴国と共に戦った時代の歴史である。この戦争で、ベラルーシ国民の3分の1が命を落とした。それが全てを物語っている。国全土が、強制収容所やゲッターで覆われていた。

・貴長官のミンスク訪問前、多くの人が、ベラルーシ・米国関係について書いていた。敵はからかい、愚弄し、愚行を演じた。貴長官についても、私についても多くのことが書かれていた。テーマは非常に辛辣であ

った。おそらく、西側においても同様であろう。彼らを失望させなければならない。

・我々は、かなり前から知り合いであったことを想起したい。残念ながら、直接会ったわけではないが。貴方が前職在任中(注:米国中央情報局長官)、我々は、特殊機関のラインで一連の作戦を米国人とともに実行した。これらの作戦は、テロとの闘い、人身売買に関するものであった。我々は、核物質の拡散を防止するためのきわめて真剣な作戦をいくつか実行した。私は、ベラルーシ国境で、西側に核物質を持ち運んでいた犯罪者を共同で拘束してきたいくつかのケースを覚えている。

・このように、我々は、地球上の平和の名の下に、また貴長官とトランプ大統領が大きな関心を払っている核兵器拡散防止の闘いのもと、大きくはないが、共同の仕事をしてきている。我々には、人々にとって重要な共通のものがある。

・私は、本日議題に含まれる全ての事項を協議する用意がある。米国のエスタブリッシュメント層に広く行き渡る全ての疑問に、心から正直に答えよう。

・しかし、貴長官は、普通の人々が暮らす、普通の国に訪問したと分かってほしい。安定と平和のために働く用意のある国民であり、国である。少なくとも、この地域において。おそらく、貴長官とこのことについてさらに話すことになろう。貴長官のベラルーシ来訪を歓迎し、お会いすることを嬉しく思う。

ポンペオ国務長官の発言要旨は以下の通り。

(2/1 インターネット通信社 Tut.by)

・ベラルーシと米国は、治安および対テロリズムの分

野において協力している。この分野における両国関係を今後も発展させることができると期待している。

・ベラルーシにはロシアとの長い歴史があることを知っており、我々は、私たちか彼らかの選択(当館注: 米国かロシアかの選択)について話をしているのではない。私たちは、外交関係について話をしており、近い将来、大使を任命する。大使はここにやって来て、それが善意の強化であることをあなたは見るであろう。私たちはまた、米国企業がここで働くようになるために作業する。

### ●政府高官の任命(1/30)

・大統領府副長官 ヴァレリー・ベリスキー(前職: 共和国科学アカデミー学長)

・大統領官房次官 ゲンナジー・ボグダン(前職: ベラルーシ国営企業ベラルーシトルグ社長)

・大統領官房人道局長 イーゴリ・クドレヴィチ(前職: ミンスク・ペルヴォマイスキ地区長)

・駐中国ベラルーシ大使 ニコライ・スノプコフ(前職: 大統領府副長官)

(1/30 大統領府公式ホームページ)

### ●カザフスタンとの石油供給に関する交渉を承認する大統領決定第 27 号に署名(1/29)

(1/29 大統領府公式ホームページ)

### 【外交】

#### ●ダブキユナス外務次官、崔駐ベラルーシ中国大使と会談(2/3)

両者は、新型コロナウイルスに対する包括的な国内措置に関する情報交換やベラルーシ人・中国人労働者・留学生のベラルーシ帰還のための相互協力に関する協議を行い、効果的な協力のための必要な手段に関し、合意した。また崔大使は、ルカシェンコ大統領とベラルーシ国民に対し、中国への医療支援に関し謝意を述べた。

(2/3 ベルタ通信)

#### ●米国への入国制限国リストからベラルーシは除外

#### される(2/1)

米国政府は、米国入国制限を課す国の拡大リストを発表した。同リストには、キルギス、ミャンマー、エリトリア、ナイジェリア、スーダン、タンザニアが含まれる。(2/1 ベラパン通信)

#### ●ポンペオ国務長官、マケイ外務大臣との共同記者会見(2/1)

ポンペオ国務長官の発言要旨は以下の通り。

・ルカシェンコ大統領との会談において、経済について長く協議を行った。「ル」大統領は、ベラルーシは、どこかの国の一部になることはない主権を持つ独立国家であると述べた。米国は、ベラルーシが主権国家を建設する支援をしたい。従い、我々のエネルギー生産者は、競争力のある価格で、必要な石油を100%提供する用意がある。我々は、世界で最も強いエネルギー資源生産者である。貴国にとって必要なものを全て、我々に伝え、相談すべきである。

・米国にとって、人権、市民社会、および報道の自由が優先事項である。これらの問題の進展が制裁を解除する唯一の方法である。

・ベラルーシが、人身売買に対するさらに厳格な基準を導入すること、信教の自由に関しさらに実行していくことを期待する。米国や欧州を中心に反ユダヤ思想が蔓延しているが、歴史の繰り返しを許さないベラルーシの決意を歓迎する。

・米国は、1991年にベラルーシの独立を承認した最初の国の一つであり、当時からその姿勢は変わらない。米国は、ベラルーシが自身で選択すること、地域における建設的役割を担うことへの希望を支持する。貴国は、なんらかの力に屈服すべきではない。自身のプライオリティや貴国にとって、そして我々の相互関係にとって良いことを決定すべきである。

・近い将来、両国の政府機関は、国境保全分野、サイバーセキュリティ、麻薬流通における協力を拡大する。この目的で、ベラルーシは米国国防省、FBI、反人身売買機関と協定を締結している。

・経済関係の改善について、両国は、米国企業のベラルーシ市場進出を阻む障壁を克服する必要がある。

WTO への加盟，民間セクターの活力ある発展，法・規制面の改革がベラルーシの貿易潜在性を開くであろう。

マケイ外務大臣の発言要旨。

・米国国務長官のベラルーシへの前回の訪問は，26年前に行われた。今回の訪問は，ベラルーシ・米国の相互協力の強化に対する明確な兆候であり，二国間関係の段階的な正常化に対し大きな刺激をもたらすと考えている。

・「ル」大統領との会談は，絶対的な信頼と相互理解の雰囲気の下で実施された。二国間関係に関し，幅広く議論された。両者は，多くの分野で，二国間のアプローチや利益が，一致ないし共通点を持っていると結論付けた。二国間関係をさらに発展していくという両者の政治的意図が感じられた。12年に亘り不在であった大使の相互派遣がこれを促進していく。ベラルーシは，米国が述べたベラルーシの主権と独立に対する支持を歓迎する。

・会談では，二国間の経済投資協力について，重要であるが，まだ使い切られていない潜在性について指摘があり，メカニズムや分野について協議が行われた。

・二国間の治安組織における相互協力に関して強調された。両国は，地域そして国際安全問題に関する対話を継続する意思を確認した。とりわけ，地域の状況や NATO 陣営との相互協力の有望性に関する意見交換がされた。大陸における平和と安全の保全に向け尽力するベラルーシの意思が指摘された。

(2/1 ベラパン通信)

●ルマス首相，ユーラシア政府間評議会会合に出席。同会合後の記者会見におけるルマス首相の発言要旨は以下の通り。

・議長国として，ベラルーシは，障壁や制限に対する体系的なメカニズムの設立を検討したい。第一に，合意に至っていないメカニズムにおける国内市場の障壁の除去作業を提案する。今日の制度では，制限措置の提唱国が，当該制限の導入が理にかなったもの

であることを証明している。これらの問題の検討は，ユーラシア経済委員会に委ねるべきである。ユーラシア経済委員会には，これらの問題に深く没頭し，国に障壁の排除を義務づけるべき専門家がいる。

・障壁についての課題を解決する効率性はビジネスにとって死活的に重要である。障壁に関し，ビジネスが裁判所に訴えることは避けるべきである。我々は，ユーラシア経済委員会の決定に賛成しない国家が，独立で，同委員会の決定が間違っていることを裁判所で証明するように提案する。これは強く確信しており，ベラルーシ含め全ての国に関係する。障壁を除去したいのであれば，この道を辿るしかない。

・ユーラシア経済同盟における障壁，制限のリストには71の行為がある。4年前は60行為であった。ユーラシア政府間評議会の度にいくつかの障壁が除去されているが，新たな障壁の導入により，その数は増加傾向にある。なぜならば，ユーラシア経済委員会は国の経済の作業に没頭しており，域内貿易を妨げる新たな障壁や制限を見つけてきたためである。

・これらの制限の一括パッケージによる一斉排除という提案もあるが，非常に難しい問題である。重量，期間，経済への影響等，様々な制限と障壁がある。しかし，この道に進む必要がある。ユーラシア経済委員会から議長国ベラルーシへの最初の依頼は，全ての国の姿勢，各国がパッケージで問題を解決する用意があるか，を確認することである。

(1/31 ベラパン通信)

●ルマス首相，ミシュスチン露首相と会談。

両者は，ベラルーシの WTO 加盟に関する両国の相互作用，エネルギー問題，統合問題等，二国間の全ての未解決の問題に関し協議し，近い将来モスクワで政府間協議を実施することで合意した。

(1/31 ベラパン通信)

●ルマス首相，カザフスタンを訪問し，マミン・カザフスタン首相と会談。

両者は，石油供給に関する実質的な交渉につき協議。来週，ベラルーシ国営企業ベルネフチェヒムの代表

団がカザフスタンを訪問する予定。

(1/30 ベラパン通信)

●ダブキユナス外務次官、メンゼーツェフ駐ベラルーシ露大使と会談

両者は、対ナチズム勝利 75 周年の祭典への準備、二国間および独立国家共同体(CIS)の枠内での共同の措置について協議し、露ベラルーシ地域フォーラムのベラルーシにおける開催という文脈においての二国間の地域協力の発展の可能性について意見交換を行った。

(1/30 ベラパン通信)

●ベラルーシ、中国へ新型コロナウイルス蔓延に対する闘いのため、人道支援を実施。

ベラルーシは、10 トン超の消毒剤、4.5 トンの抗生物質、その他、医療従事者向けの手袋、マスク、使い捨ての看護服等、計 20 トンの医療資材を中国向けに送付した。

(1/29 ベルタ通信)

●アフラモヴィチ駐アゼルバイジャン・ベラルーシ大使、ジャバロフ・アゼルバイジャン経済大臣と会談 (1/29)

外務省報道によれば、両者は、「新製品グループ」の相互調達の拡大と、観光及び教育分野における相互協力のポテンシャルの発展につき、協議した。「新製品グループ」の具体的な情報は言及されていない。

(1/29 ベラパン通信)

**経済**

**【対外経済】**

●2019 年ミンスク市の貿易高、2018 年対比 1.5%減少。

(2/3 ベラパン通信)

●ミヤスニコヴィチ共和国院(上院)議長、ユーラシア経済委員会の議長に就任(2/1)

(2/2 ベラパン通信)

●ベラルーシ国営木材製紙業コンツェルン・ベルレスブムプロム、2019 年中国への輸出量、2018 年対比 3 倍に拡大。

ベルレスブムプロム社の 2019 年の輸出額は 5 億 7860 万ドルと、2018 年対比 3.6%増加した。中国向けは、4920 万ドルと、2018 年対比、3 倍に増加。その他、イスラエル、イラン、アラブ首長国連邦、ポルトガル、フィンランド、オーストリア、ルクセンブルクへの輸出も増加した。

(2/2 ベルタ通信)

●ルマス首相、カザフスタンにおけるデジタルフォーラムに出席、全体会合において発言。

ルマス首相の発言要旨は以下の通り。

・IT は、ベラルーシの国家的優先事項である。IT 国家設立という野心的目標を掲げ、経済を再構築し、デジタルルールに載せた。

・ベラルーシにおいては、発展し、国際基準に沿ったデータ送信、データ保存、データ処理、情報保護のインフラを整えることができた。

・国営のデータ処理センターを整備した。これは、国際基準の証明を持っており、高レベルの安全性を保障する。すでに 400 を超える国家組織が同データセンターおよびクラウドの使用に段階的に移行している。

・電子請求書の導入、保健省内での電子処方箋システムの導入等も実施している。

・ベラルーシ IT 産業特区「ハイテクパーク」は、ルカシエンコ大統領の個人的な支援により設立され、成功を収めている。東欧における頭脳集積の中心地となっている。IT はベラルーシで最も成長著しい分野である。同分野の 2019 年の輸出額は 20 億ドルであるが、3 年前、同数はこの 4 分の 1 にも満たなかった。直近 2 年間で「ハイテクパーク」は拡大し、入居企業は 800 社近くまで到達した。未来に対し楽観主義をもたらした。

(1/31 ベラパン通信)

●ベラルーシの知的財産サービスの輸出額, 2 年間で倍増し, 1 億ドルに到達。

国家知的財産センター理事会の拡大会議において, リャボロフ国家科学技術委員会事務局長が発表した。

(1/30 ベラパン通信)

#### 【国内経済】

●2019 年 12 月時点でのベラルーシの被雇用者数, 4,000 万 333.5 人と昨年対比, 2,500 人減少。

(1/30 ベラパン通信)

#### 【軍事・治安】

●2019 年ベラルーシの犯罪発生件数, 2018 年対比, 5.4%増加。

ハイテク分野, 公共の場や飲酒状態での犯罪が増加している。インターネット含む児童に対する性犯罪も深刻な脅威となっている。他方, 犯罪報告は 2018 年対比 7.9%減少, 重犯罪は 9.5%減少, 再犯罪率も 5.2%減少している。また薬物犯罪も減少している。

(1/31 ベラパン通信)

●ラフコフ国家安全保障委員会国家書記, メンゼーツェフ露大使と会談(1/29)

両者は, 露・ベラルーシ両国の戦略的パートナーシップの方向性, 接触の強化, 安全分野における共同案件の発展に対するコミットメントを確認した。また, 第祖国戦争勝利 75 周年行事の準備と祝祭に関し協議した。

(1/29 ベラパン通信)

(了)